

# 障がい者雇用の業務 への姿勢を学ぶ

---

障がい者が就職するための最低限の知識を培いましょう



# これから学ぶ**3**つの知識

---

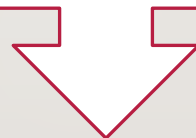
1.障がい者雇用の根本的な役割

2.障がい者雇用が業務を行う上での根本的な姿勢

3.障がい者雇用の社会貢献

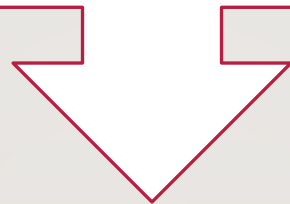
# 1.障がい者雇用の根本的な役割とは何なのか

法定雇用率の上昇と維持に貢献し、将来の障がい者雇用が入社などをした際、働きやすい職場を構築することなのです。



多くの企業は、法定雇用率を達成を目指し、上昇と維持を行い、企業の対外的な印象を良くするために障がい者を採用します。

つまり、障がい者雇用は企業にとって、「福祉的観点から、社会に貢献できていることを顧客に紹介するためのある意味での広告番といえます。



障がい者雇用が、長期的な就労を実現できれば、企業は障がい者雇用のみならず、一般の社員にも、働きやすい職場だという印象を、日本国政府に「お墨付き」をもらえるため、優秀な人材が集まり、顧客からの信頼を得て、売り上げの上昇につながる可能性があるのです。

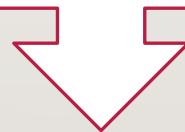
障がい者雇用には、ただ長期的な就労をするだけで、  
**企業の広告としてのポテンシャル**を秘めているのです。



## 2.障がい者雇用が業務を行う上での根本的な姿勢とは何か

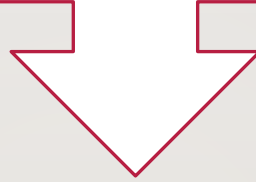
---

あえて「私は障がい者なのに、この企業はありがたいことに雇用し、社会貢献をさせていただき、自分に役割を与えていただいている」という姿勢をしっかりと持つことです。



障がいを患い就労する中で、理不尽な事柄を感じることもあるでしょう。しかし、**障がい者が社会参加し、貢献できる世界を構築することは、障がい者にとっての、理不尽であった歴史を変えるための闘いなのです。**

障がい者は、あえて事例を上げませんが、世界の歴史には、国家による社会的な差別や大量虐殺などがありました。様々な歴史を得て、**障がい者が人間らしく生きる、社会の構築をしてきた、一人ひとりの名もない障がい者が数多く存在します。**



障がい者とは理不尽なもので、国家の法律や制度、健常者たちの考え方によって、良いほうにも悪いほうにも、健常者よりも、人生を大きく左右される存在なのです。しかし、**国家や健常者の庇護がないと生きられないのもまた事実**です。

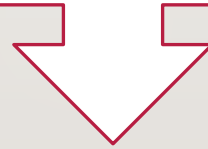
決して、就職して、一人立ちして、自分自身の采配で生きていると感じても、実際には様々な助けや支援を通じて障がい者は生きています。それを忘れず、常に健常者には、謙虚な心で接し、発言するべきところは発言していくことが、就労と生活ともに行うことが大切なのです。



### 3.障がい者雇用の社会貢献の実情

---

2026年現在の日本国は、**障がい者が社会進出をする時代**で、まだ労働条件や環境を改善をする余裕の無いまたは難しい段階なのです。



障がい者は、一人ひとりが、**50年後の日本の障がい者の生活や就労を取り巻く環境を良い方向にもっていくために行動することが大切**なのです。

# 日本国の障がい者雇用は一見不安定な存在に感じられます。

---

●しかし、見方を変えれば日本国の憲法と法律と制度に守られ、健常者の継続的な雇用を求める風潮が変わらない限り、ある種の最強の安定した雇用契約があり、国家公務員にも引けを取らないのが障がい者雇用という世界なのでしょう。

●50年後を考えてみてください。今は、労働環境の悪さや給与が低賃金とされています。

●しかし、さらに、安定した雇用契約環境のもと、環境が大幅に改善されれば、**健常者以上に安定した暮らしができる日本が誕生する可能性があるのです。**



ではなぜ、障がい者雇用は不安定な雇用契約とされているのでしょうか

それは、障がい者雇用が長期的な就労をできるための、様々な準備が、障がい者にも事業者側にもできていなくて、ミスマッチが起こり、企業側も仕方なく、早期退職を了承するケースがとても多いからです。

障がい者雇用は、障がい者の就労の安定をさせるために、憲法と法律と制度と健常者の固定概念により、強固に守られた最強の雇用契約なのです。

企業は、障がい者を不当解雇にしたら、世論が許さないため、決して障がい者から、退職を申し出ない限り（障がい者に落ち度がないかぎり）、解雇するのが非常に難しいのが現実なのです。

障がいを患う者は、50年後の障がい者を取り巻く環境を良い方向にもっていくために、一つひとつ行動していくことが求められるのです。

だからと言って、意気込む必要はありません。今の自分にできること、できるだけやってみることが必要なのです。失敗しても落ち込む必要はありません。失敗して当然！という考え方で、一歩前を歩いてみる、それが、自分自身が幸せになる未来を得て、未来の障がい者によりよい世界が待っているのです。



皆さん、ご視聴ありがとうございました。

---

**障がい者生活就労対策推進研究会（SSSK）**  
を今後もよろしくお願いいたします。